

石屋工務店 かわら版

第82号

石屋工務店

TEL 492-1483

京都市北区大宮薬師山東町31-1

http://www.kyoto-deseo.co.jp

大 石屋の多趣味人生



釣りも小休止のため、亀岡・篠山から三田の永澤寺(ようたくじ)の菖蒲を見てきました。17年ほど前に芝桜を見に行ったらしいのですが、その場についても思い出せません。本当に行つたのだろうか?と思つています。菖蒲のところは初めてですが、なかなか広いところでした。時期はまだ早く、半分も咲いてはいなかったのですが菖蒲の

最近の休日

花の大きいのにびっくりした。帰りは篠山から舞鶴若狭自動車道を通つて小浜に。鯖街道の朽木・大原を通つてグルッと一回りしてきました。

石坂晴夫



梅雨に入る前に実家に帰りました。私の実家は滋賀県の米原市の山奥にあります。琵琶湖からほどほど離れており、伊吹山をはじめ、多くの山々に囲まれています。小学校はその山の麓にあり、放課後は山や河原で遊んだ記憶があります。川には小さな魚がいて、それを釣つて天婦羅にしたり、山で山菜を取つてきて、おひたしにして食べたり

自然と生きる

しました。そんな自然がたくさんの中で育ちました。現在もたくさん木々や田んぼがあり、山からの綺麗な川が琵琶湖まで流れています。しかし昔と変わってしまったところがあります。子供が減ってしまひ、母校の小学校が今年で廃校になってしまいました。また、山が切り開かれ、工場がひとつ、またひとつ増えていきます。人が住む為

の良い環境が壊されていって、悪い環境がじわじわと入り込んできている、と感じています。大人が仕事を求め都市部へ移つてしまふので、子供が減るのはしかたがなはいかめしいかもしれません。工場も生活を豊かにする為、物を作らなければならぬので、必要でしょう。でも、そうやって自然を切



はできません。そうなる前にどうすれば人が移つてくれるのか、ここに住み続けていられるのか。人が住むために必要なモノや環境を創る仕事をし、また、人が住むだけでなく、その周りの環境との共存する為の勉強をし、蓄積したものをこの問題にどうぶつつけることができるのか。道のりは長いですが今からでも考え、行動していきたいと思つています。

古野充宏

前回はアステーションでのラジオ出演でしたが、今回は気分を換えてAM放送に出演することに致しました。実は私が最初にラジオに出るきっかけを作ってくれたのはKBSさんでした。車の運転中に何気なく聞いた中にラジオオカ1の訪問と言うのが有りました。同業者の事務所?、モデルハウスを訪問すると言うのが有り、面白そうだなと思ひ尋ねてみました。話ほとんどん拍子に進み、次の週にはラジオオカ1出演へ。

当社のモデルルームにKBSのスタッフとアナウンサーが来てくれ、いきなりの本番でした。かなり緊張はしたのですが、思いの部分は伝える事が出来、これならもう少ししゃべれるぞと思つてしまいました。常日頃お客様へ話している内容をしゃべるだけです。石屋 紀次



先日、近くのレンタルビデオ店のセール期間だったので、旧作がどれでも120円と安く、久しぶりにビデオを借りて見ました。その中で面白かったのは「ブラック会社に勤めているんだが、もう俺は限界かもしれない」と言うタイトルのものです。内容はプログラマーの資格を取り、新しい会社に勤めたもののそこはブラック会社であり、デスクワーク等で喰えられるソフトウェア業界の長時間労働、職場のいじめが横行

している場所だったと言ったので、ニートだった主人公が、会社での苦難を乗り越えて、自分自身を成長させていくと言うストーリーでした。この内容は2チャンネルと言う電子掲示板からの書き込みにより書籍になったと言うもので、実際こんな会社があるのか?と想つたりしますが、本当は近い現実があったりするかもしれない。私は、この会社でよくつたと思える映画でした。山本 夕起子



到着までの降雨も拝観する頃には止み、雨が葉の汚れを落として新緑の美しさを際立ててくれませんでした。庭の造りだけでなく、庭を印象付ける細工も素晴らしいものです。庭だけでなく所蔵品の絵画等も有名なものがあつて驚くばかりでした。足立美術館への途中、奥出雲を通りました。大きなループ橋もあり、一寸後ろ髪を引かれるところがありました。うちに行つてみたいと思つています。石坂 千孝

前号で書いたようにゆつくり滞在することはないので「どりあえずココに行く」と決めた今回の最後は島根県安来市にある足立美術館です。米国の日本庭園雑誌実施ランキングに「10年連続庭園日本一」で桂離宮を越しています。春夏秋冬訪れるとよいのでしようがなかなかそうは行きません。今回も出雲大社の「平成の大遷宮」と重なり、大層の渋滞がありました。上手に避け、足立美術館も程よく空いていました。

到着までの降雨も拝観する頃には止み、雨が葉の汚れを落として新緑の美しさを際立ててくれませんでした。庭の造りだけでなく、庭を印象付ける細工も素晴らしいものです。庭だけでなく所蔵品の絵画等も有名なものがあつて驚くばかりでした。足立美術館への途中、奥出雲を通りました。大きなループ橋もあり、一寸後ろ髪を引かれるところがありました。うちに行つてみたいと思つています。石坂 千孝



※写真は足立美術館と庭園

KBSのアステーション出演

ビデオ鑑賞

泊三日の旅行記 松江編

